

「A：十分達成できた ～90%」「B：おおむね達成できた ～70%」「C：あまり達成できなかった ～50%」「D：達成できなかった 50%未満」

分 掌	ねらい PLAN	具体的な取組とねらい DO	評価 CHECK			今年度の課題と改善案 ACTION
			取組の成果	中間	期末	
国 語 科	生徒の学習意欲の喚起を図る。	- 教材研究と授業研究をより綿密に、共同で行うことで、生徒の学習意欲を高め、基礎学力の定着を図る。 - 教科会や作問等を通じて、互いの指導力を向上させる。 - ICTを効果的に活用し、生徒に興味をもたせる教材提示や学習活動を工夫する。	- 共同で教材研究をする時間はなかなか持てないが、授業の情報交換は個人間で行われている。 - 実テや模試、文法テストの作問は情報交換が行われている。 - 教材の提示では、ICT活用が行われている。	B	B	教材の変更もあるので、生徒に付けたい学力を見極め、より効果的な授業を目指す。また、作問の際の情報交換は活発に行われているので継続したい。
	現代文読解力・表現力、および古典読解力を身につけさせる。	- 教材を精選し、3年間を見通した指導を行うことで、進路実現に必要な学力を身に付けさせる。 - 古典文法テスト（1，2年）を実施し、できるまで徹底的に指導することで、古典読解力を身につけさせる。	- 時間数の減少もあり、担当者間で教材の精選を行っている。 - 文法テストについては、時間をとって指導できている。	B A	B A	進度を合わせて教材を扱い、効果のあった取り組みを紹介することで学習意欲の喚起を図りたい。表現力の取り組みを取り入れていきたい。
	個々の生徒に応じた学力の伸長を図る。	添削指導などを行うことで、個々の生徒の進路志望に応じて、生徒の積極的な取り組みを支援する。	3年生の志望理由書や小論文に対して、添削や面接を通じてきめ細やかな個人指導ができています。	A	A	添削指導は活発に行われている。量が偏りがちなので、負担がかかりすぎないように努めたい。
地 歴 公 民 科	授業に対して主体的に取り組む姿勢を身につけさせる。	- 魅力的な教材の開発を進めることで、生徒の興味関心を喚起させる。 - 授業の進め方や教材提示のあり方を工夫することで、授業に対して前向きに取り組む姿勢を身につけさせる。	- 生徒に身近なテーマの課題を与え、それについて探究した成果を発表していくなかで、主体的に授業に取り組んでいく姿勢を育むことができた。 - 個別の課題や添削を希望する生徒が出てきており、学習に対して、前向きに取り組む姿勢が育ってきている。	B	B	各科目でグループ討議や発表学習に取り組んでいるが、進度の問題もあり限られた回数しか実施できていない。今後も時事的な話題や身近な素材を提供し、生徒の興味関心を更に喚起していき、主体的な学びにつなげていきたい。
	定期考査・校内模試等の機会を通し、知識の確実な定着を図らせる。	入試問題等の研究を進め、良質な問題を生徒に提供することで、生徒の学習意欲を高めるとともに、試験後の復習にもしっかり取り組ませ、求められる知識の確実な定着を図らせる。	各科目で入試問題、また新テスト問題への対策を行い、基本知識の確認に加え、思考力を問う問題等も多く取り入れることによって着実に成果もあらわれている。	B	A	今後も共通テストの問題の傾向や私大入試問題などをそれぞれの科目で研究し、多様な問題に対応できるような力を身につけさせていけるよう取り組んでいく。
数 学 科	基礎・基本を定着させる。	- 復習テストや小テストを実施することで、直近の学習内容の定着を図る。 - 定期考査等の後に訂正ノートを作成させることで、学習内容の理解と定着を図る。 - 早朝学習（2年理系・理数科）で、問題演習に取り組ませることで、既習の学習内容の定着を図る。	- 復習テストや小テストを計画的に実施でき、その効果は大きいと感じる。 - 早朝学習や3学期からスタートした入試問題集を用いた基本問題演習に取り組ませることができた。 - 訂正ノートの提出について、丁寧に取り組んで定着させている生徒が多いが、学年によっては提出率が低い。	B	B	訂正ノートの取組などで、解答例の行間を考えない生徒が一定数おり、自ら考える姿勢を身につけさせる必要がある。プリントなどで問題演習をする機会を増やしていきたい。
	主体的・積極的な学習を促す。	ICT機器を利活用しながら、積極的に活動したり意見を発表したりする場面を授業の中で設定することで、主体的な学習を促すとともに学習内容の理解の深化・定着を図る。	ICT機器の使用状況は担当者によって様々であるが、グループやペアでの意見交換の時間をとることで積極的に意見交換ができており、理解につながっていると感じられる。 ・2年生で自ら課題以外の学習に取り組む者が増えてきた。	B	B	活動には取り組むが、主体的に「考える」までには至っていない生徒が見受けられる。できるだけ時間をとって、もっと考える時間を確保する。

「A：十分達成できた ～90%」「B：おおむね達成できた ～70%」「C：あまり達成できなかった ～50%」「D：達成できなかった 50%未満」

分 掌	ねらい PLAN	具体的な取組とねらい DO	評価 CHECK			今年度の課題と改善案 ACTION
			取組の成果	中間	期末	
理 科	科学的な概念の理解など基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。	・定期考査や実力テストの内容を生徒の思考段階を細かく理解できるよう、また共通テストに対応できるよう教職員が作題を工夫することで授業の充実を図る。 ・単元毎に小テスト等を実施することで、知識の定着を図る。 ・授業内容の精選や、実験・観察を増やすことで自然や科学技術に関する興味関心を高める。	・現象を理解し、数式でも扱えるようにするために、必要な問いを授業中に発するよう意識した。 ・テスト問題の作成は基本や頻出問題を出題するとともに、共通テストを意識した思考力を問う問題も意識した。 ・小テストを実施することを心掛け、基礎的内容の定着を図った。 ・実験では重要実験を取り上げ、実験操作・データ処理等の基本事項の定着図った。	B	A	・授業中に問題演習を行う時間を確保する。教科書の内容のインプットだけでなく、じっくりと考える時間を確保するために教科書で教える内容を精選する。 ・単元毎に小テストを取り入れるために、問題数や内容の精選を図り、実施回数を増やす。 ・教科書に書かれている現象を生徒同士で説明しあえるようになる。
	・科学的な思考力・表現力を育成する ・探究的な学習活動を一層充実させる。 ・急速に発展してきた科学技術の成果と日常生活や社会の関連について対応できる生徒を育成する。	・生徒が、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の課題研究発表会等に参加することで科学的な思考力、表現力を高める。 ・生徒が「理科課題研究」を通して、探究活動に関する教職員とのコミュニケーションを活発にすることで、教科内容の科学的理解を深める。 ・教職員が自然科学に関するニュースや各種案内等を紹介することで生徒の自然や科学技術に関する興味・関心を高める。また生徒の日常生活と科学技術の関連性についての理解を深める。	・自ら学び、わからない部分を生徒同士で教えあい、発表することができるようになるという学び方のプロセスを意識させた。 ・課題研究に慣れてきて、生徒たちは自発的に問題を見つけられるようになってきた。また、実験等の計画を立てて進めていくことができた。 ・各種大会の案内を紹介することで参加する生徒が現れ、科学の甲子園県予選では2位の成績を得た。	B	A	・生徒主体の授業では進度が遅れがちとなったので、発問を精選し生徒が考える時間の確保と進度を両立させたい。 ・課題研究において考察が十分でないので、科学的根拠に基づいて考えられるように指導する。また、発表の仕方についてもアドバイスしていきたい。 ・興味・関心を持つ生徒を選抜し、各種大会へ参加させる必要がある。
保 健 体 育 科	心豊かでたくましい心身の育成を図る。	・選択種目（器械運動・陸上競技・球技・武道・ダンス）を設けることで、生徒の活動意欲を高めるとともに、個人や集団にあった練習法や課題解決法について考察・実践させる。 ・体力づくりでは、体ほぐし運動と体力を高める運動の実践させることで、しなやかでたくましい心身の育成を図る。 ・体育理論では、スポーツの歴史や特性、効果的な学習法、豊かなスポーツライフの設計の仕方等について理解させることで、運動への興味・関心を高め、生涯にわたっての実践を促す。	コロナウイルスの蔓延が続き、常にマスクをつける生活が続く中で、体力の低下が懸念され、特に持久力が低下しているように思われる。 集団的技能を必要とする種目に関しては、今ひとつであった。	B	B	コロナ感染症蔓延のため、身体接触をともなう種目について制限がかかった。そのような中で、体力の維持・向上を図る態度を養成していきたい。
	人間尊重の精神と規律ある生活習慣の確立を図る。	食事や運動など身近な生活習慣や身の周りの環境、精神面の安定などの様々な角度から健康を捉えさせることにより、健康な生活を実践する知識や習慣を養わせる。	コロナ感染症の蔓延も3年目となった中で、自分の健康に気遣う態度ができてきたように感じる。	B	B	自分の健康を考えるのはもとより、周囲の人々の健康に関しても注意する態度を養成する。

「A：十分達成できた ～90%」「B：おおむね達成できた ～70%」「C：あまり達成できなかった ～50%」「D：達成できなかった 50%未満」

分 掌	ねらい PLAN	具体的な取組とねらい DO	評価 CHECK			今年度の課題と改善案 ACTION
			取組の成果	中間	期末	
芸術科	幅広い活動を通して芸術文化についての理解を深める。	- 様々な題材をバランスよく配置し、幅広く触れさせるとともに、教材づくりを工夫することで、生徒の興味・関心を高め、芸術文化に親しませる。 - 人の内面にあるものを浮かび上がらせる作品づくりや、歴史的背景への洞察等を行うことによって芸術文化への理解を深める。	コロナ感染防止のため、実施できないものもある中、ほとんどの生徒が積極的に活動できた。	B	B	表面的な部分で満足してしまう生徒が一定数おり、深く考えさせるような指導をしていく。
	主体的・協働的に活動させることによって生まれる感動を通して、芸術を愛好する心情を育てる。	- 生徒自身の発想や意見を尊重しながら、適切な助言を与えることで、生徒により高い完成度のイメージを持った工夫改善に取り組ませる。 - 学習成果発表会(美術と書道は作品展示、音楽は演奏発表)を行うことで、生徒の活動意欲・技能を高めるとともに、達成感を持たせる。	主体的に創意工夫していこうとする姿勢が見られ、成果発表会への意欲も高まっている。	B	B	創意工夫しながら技能を高められるよう個別指導を増やしていく。
	鑑賞学習の充実を図り、感性を高め、豊かな情操を育む。	- 生徒の作品・演奏について互いに鑑賞し合う機会を設け、相互評価を行うことで、生徒の感性を高め、対話的で深い学びにつなげる。 - 視聴覚教材を工夫することで、豊かな感性・情操を育む。	相互評価において、活発な議論となるまでは至っていない。	C	B	感じたことを言語化する機会を増やし、作品に対して自分の考えをしっかりと述べるようにさせる。
英語科	基礎的事項（語彙・文法・構文）を定着させる。	- 予習・復習の徹底により、授業内容に繰り返し触れさせることで、基礎的事項の定着を図る。 - 授業での活動を工夫することで、生徒を意欲的に取り組ませる。 - 定期考査、実力テストなどにきちんと取り組ませることで、基礎的事項の定着を図る。	提出物や予習を提出させて終わりだけでなく、授業の効果や生徒自身の学習の振り返りができるよう工夫した。ペアワークを活発に行い、生徒同士で理解を深め合うことができた。考査や実力テストの訂正ノートに取り組ませた。	B	B	ペアやグループで互いに理解を深め合う活動を通して基礎的事項の定着を図る。実力テストは、出題する範囲を絞るなどして、きちんと取り組めるよう今後とも指導していく。
	授業の中での4技能を使った様々な活動を通して、教科書や入試問題で取り上げられている題材や内容に対する理解を深めさせる。	教科書や入試問題で取り上げられている題材や内容を、4技能（「聞く」「読む」「話す」「書く」）を使った様々な活動の中で取り上げることで、授業内容への理解を深める。	音読テストを始め、繰り返し声に出して読むことの効果に気づく生徒が増えた。オーラルイントラダクションやリテリングを取り入れた指導実践を他の教員も参考にしたい。	B	B	パフォーマンステストで評価したいことが日常の授業で指導できるようにしていく。4技能のバランスを意識した授業展開を工夫する。
	4年度に検討したパフォーマンス評価を、評価の観点を整理したうえで実施する。	教科担任ごとに行ってきた成績処理を、4年度入学生から学年統一のExcelシートでおこなう。	教科会を重ねて評価の観点を共有化し、学年を通した評価が行えるようになった。	A	A	パフォーマンステストの実施方法と評価方法について担当者がローテーションしながら相互に指導を工夫していく。

「A：十分達成できた ～90%」「B：おおむね達成できた ～70%」「C：あまり達成できなかった ～50%」「D：達成できなかった 50%未満」

分 掌	ねらい PLAN	具体的な取組とねらい DO	評価 CHECK			今年度の課題と改善案 ACTION
			取組の成果	中間	期末	
家庭科	実生活と結び付いた基本的な知識や技術の習得を図る。	・衣食住の基本的な知識や技術を習得させ、生活的自立を促す。例えば調理実習においては食材や献立を精選することにより、基本的な内容をさらに活用できる能力を高める。 ・18歳成人に伴い、経済・消費生活における自立を促す、超高齢社会の実情を知るなど、現在の社会や環境に即した学習をとoshi、各自のあり方を考えさせる。 ・ライフストーリーのシミュレーションにより、将来の生活において必要な内容・技術を認識させる。	調理実習の途中の時期であるが、今のところ前向きに取り組んでいる。 ・様々な教材を用い、話し合いや考えることによって、18歳成人に対する心構えや理解が深まった。 ・各自のシミュレーションにより、。ライフストーリーと、経済計画を結び付けて考えさせることはできた。	B	A	コロナの関係で分割の1時間実習となった。今後は、献立を立て、同時に複数の調理に取り組むなど、より実生活に近い内容にできるとよい。
	家庭や社会人としての自立をめざす態度を育てる。	ホームプロジェクトなどの実践的学習を行い、テーマ設定の段階から個別にアドバイスをすることにより、各自の家庭生活における問題点を考え、改善に取り組む態度を育てる。	計画段階では、全員考えて計画を立てられた。実践結果は1月にまとめ、全員が各自の課題に取り組み、発表することができた。	A	A	評価が多項目にわたるため、評価基準をもう少し検討したい。
情報科	統計処理を実践することで、その方法の知識や理解を促す。	統計グラフコンクールの作品作りに取り組ませることで、統計処理の知識や理解を深めるとともに、情報活用能力を高める。	県コンクール特選2入選2佳作2 全国コンクール佳作1 優秀な成果を上げることができた。	A	A	結果を次年度以降共有したい。
	各種ソフトウェアの操作技術を習得する。	・表計算ソフトを用いて統計データを扱うことで、基本的な操作を身につける。 ・調べ学習の成果を、ワープロソフトやプレゼンテーションソフトを用いてまとめることで、情報処理能力を高める。	統計処理のために表計算ソフトを情報モラルの発表のためプレゼンソフトとワープロソフトの技術の習得をめざした。	B	A	技術の習得には時間が必要である。優れた課題の開発と作業時間の確保が課題である。
	情報モラルの知識を理解し、習得する。	・補助教材のテキストを使って情報モラルの学習を行うことで、知識を理解・習得させる。 ・情報モラルについての調べ学習の成果を相互に発表することで、理解をさらに深める。	プレゼンソフトの技術の習得を兼ね、自ら調べ発表することで知識の定着を図った。調べ発表したことは定着できたが、班によっては内容が浅く深い学習となっていない。	B	B	深い学習に結び付けることが課題である。聴衆からの質問から学習を進めたいが時間が不足している。
	プレゼンテーション能力の向上を図る。	・情報モラルの調べ学習成果を発表させることで、プレゼンテーション能力を向上させる。 ・質疑応答や相互評価に取り組ませることで、論理的・批判的思考力を高めるとともに、客観的な視点を持たせる。	自らの疑問を考え、伝えることでプレゼンテーション能力を向上させることができた。 質疑応答は表面的な質問が多く十分とはいえない。	B	B	同じテーマのプレゼンを増やし、作成を競い、質問を出やすくする工夫をする。